

自書

世界都路

填地利亞
洲
七

特 31			
592			
六册	一號	一架	一函

共六本

澳
太
利
亞
洲
全
圖

東
亞
全
圖

東
亞
全
圖

東
亞
全
圖

鳴國ハ亜細亞と亜
 米利加之中途ハ
 シ、少シ亜米利加
 の方ハ近き地ナリ



まぎる水程二千
 五百海里。船路を
 する者其大洋元
 浪恬しく水は
 面淑くたれらるる

一ハ阿歪希と名く
 今より九十余年前
 英吉利の船將カド
 タンロツクと云人
 初て此嶋と見出せ
 り嶋ハ王あり其
 港とホノル、と名
 く西洋諸国の人矣
 中到りて交易を遂
 来米利堅人を備ひ

友ハ西洋人ハ
 東洋の太平洋を
 程之より其
 程ハ獨り
 之維斯の島

行政事向と託ね各
國との條約の國王
の格式ふて取結ひ
野々々學問所と建
造の開化の趣くと
至土人の皆黒色小
下見苦く大抵跣足
裸の者多く住家
ハ床のあき板屋掛
あり土地熱帯の位

人橋志崎之八箇の
中阿歪希嶋是
一の島志南の王
あり教あり。土出熱
地は場所あり。



と山とに割合
ハ凌ぎて産物か
とる少かけと出
来り由あり

去るに酷まの暑家
と産物多し交易
之華も也波の巴
那耳羅之井と
港は名々著記。

○澳大利亞洲の亞
 細亞の東南に屬し
 巴布亞島の南に在
 り本島の稱へし
 後其地歐羅巴の
 少し狭くして大抵
 同上位あり更の
 洲と稱す初め荷
 蘭人此地と見出し
 澳大利亞と名づ

亞細利人を殺
 つ見苦しく奴政
 事。たす事。つ再仕の
 國ぐと。侮むる
 結ぶ條約。他の



悔むるをさうせむる
 善く習ふる人
 の智人をむく
 町をむく此地を西
 へ度むる人系

け又新荷蘭と称ふ
紀元一千五百三
十一年西班牙王
其臣墨瓦蘭と遣
りして亞墨利加
の南より再び
西へ駛り新地と
尋ねしむ其船
教月ふしと忽ち
大地と見ら其地



荒く人の迹あり
夜中へりて火燐
出る飛乱る名づけ
て火地ラエドムと

此島を水や空
なる星をみる
西細亞海より東
南は地球の上の
南なる世界あり名

了澳大利亞細亞
も程なるを此海を
約多くありまを
甲乙と六大海を
挙了るを初めを

云ふ又檢出たる人の名を以て墨瓦蟻尼加と云ふ西班牙人此火地の開き難きと思ひて去り後百十三年と經て荷蘭人此地に到り海路の新地と説けり



其の新地

其後二十一年と經て英吉利人蘭人と逐拂ひて其地を開かん

狭き路の如き
過ぐが近き地
理合向し
なる如く
徳より五海

次ふ如く
亞細亞東より南
子房南海
大西洋の中
約歐海を以て

と此処に流し且水
 國の貧乏民と徒し
 工開墾と専らと
 地の赤道の南に在
 り時候炎燥く海濱
 平地多く山の高き
 者三十丈を過ぎ河
 少く樹木荒草繁茂
 り馬獸の形状別の
 地と異り土人黒色

分ち其五分
 當るゆゑに
 阿比奴一大地新
 和系は舊き名
 英吉利領とあり

小して髪と根を乱し
 裸體をして跣足
 る者多し草の根を
 果と食ひ住居と樹



めく持て本國に
 人種をうつ植
 する其功を
 子ありて
 波もやそ

の下に結ひ酒と一
飲バ即ち酔ひ泥の
中不倒と固まこと
水の轉び一如く男
の女と役ふこと畜
の若一怒りや輒く
之と殺も英人の流
寓者海濱の濕土小
麥と粟とと種蒔ま
草肥茂り羊と牧ひ

生かする者生かす
業小増し月可
も多しく蔓延て工匠
耕植お牧の業少る
更平事歎す。



て其毛織物と
居民十萬も足ら
して毎年運出毛羊
毛の値二百余萬兩

物産多しもの
は山を鑿ちて金
を堀り大利小言
管轄する英吉利領
の新世界は英人見

ありと云ふ百物未
だ備へらざる日
用の需めり皆外國
より従と東境の海



出ると初めより英軍
拓け持の目と二百
餘り其年の數歴
し太古結面教を
寫すと土の人種を

町の府と建て悉尼
と云ふ居民二萬余
鯨獵船時々泊り
交易頗る繁盛あり
流徒の莠民酒と飲
と博お沈り放蕩者
多し又其境は大南
海に濱して英人新
小人と從し彼處此
處に移りて住居を

亞非利加人今より
由似く面熱牙最
思く唇厚く鼻
凹く髪いと粗く
赤裸頭髪上と腰の

る者あり西境ハ又
一地と開ク江河の
濱ハ在リ北境ハ赤



間布を纏ひつ時
や。油を以て
牙の中を挿す可矣
ま。る。ひ。あり。之。束
持。性。蠢。愚。也。

道近く天氣酷しく
熱く多く海菜と産
と英人陸ハ兵とく
むう。外冠と防々
の守りしと総と澳
太利亞一土英人四
境ハ耕し収り。所
僅ハ海濱の土ハ
て百の一ニ過ぎ
む其朕地ハ樹木草

禮儀文學未知ら
む。教の道。え。何者
を。そ。む。こ。と。を。見
む。す。ず。獸を獵し
魚を捕り。山果を



英兵 衛護
 最深く茂り昧くし
 く測知るべからむ
 風土山川の形勢を
 又見る不由なり

の根肉類種
 食と物を能
 英人土地を併く
 者四境を分て四
 部とす

○班地曼蘭島ハ澳
 大利亞東南の隅ニ
 在り土肥へ五穀薯
 芋蔬菜皆種植宜し
 英人開墾已ハ大半
 小不び居民農と
 務りの外鯨と獵
 り工業と港多く
 交易頗る盛んあり
 ○擲日倫敦西嶋一

東南小島地を澳
 大利亞新南威力斯
 州と稱す
 本國に飛人を配
 流の地と追ふ

名新西蘭班地曼蘭
 の東小在り幅員之
 小倍至高山あり頂
 き小年中雪と積つ
 其雪水解けて分流
 とあり土人色黒く
 醜くけとど人事と
 知る
 往年此土人凶頑
 小して殺せと好

衆る民の業ひえ。
 盛る港に悉尾る。
 人口大納三系小解る
 或福を壓底雷歎。
 爰も南都のまつる



之仇と獲りて其
 肉と食ひ其頭と
 蔵りて極さ小誇

場とあらはた井く
 道踏く通る内
 地の形勢もや
 志る相対何を侍
 了程も進め東

り武と示せしと云ふ

英人近來其地を買ひ人口と徒しと開墾と専らふし西教を以て其土人と化せ土人健ゆして力あり鯨漁の船時々到りて土人と僱ひ水手とを然る数人

南の隅より水々

なる人住居より生

むるひの漢不班地

曼哈又そそ

右たり中を二



土人肉を割

あ過ぎに多き則ハ變と生む嘗て鯨船あり土人数十と僱

難き西極日倫敦
そそなる人を食
ひ黒面鬼小等
し悪候の英吉利
人の教化より近以

以て海中と駛り
小土人忽ち群り起
りて盡く船の者と
殺し其肉と炙りて
啖ひしと云ふ
○東南洋番嶋甚
多し西洋人其形
の似たり小船に
り小隨うして名づ
けり

今の子を知きまらむ
白きまを分つ大陽の
光をまらむ天が下
今ぞ文明盛典の
巻も再化者好機



○新危尼 ○新耳蘭
○新撒羅門 ○子ウ
ヘブリーデン 希等

今圓球地儀を學
中ふ其なきく瞬
世に肩小萬の玉を
也之路を踏ふひに
道ふ八の法も心

の名あり或は首
 長あり部落と成り
 或は野番散居する
 者皆黒色矮身はし
 と獸と等し偶々他
 國の人岸に登るが
 牙と磨擽へて血と
 吮ひ之と食ふとぞ

頭書大全

出づる歌枕座あり
 ら如く如名所の古き
 を温ね新しきあり
 犯す物めせり海
 世界題題 左尾

官許

回春樓藏

四二五

